

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	成人看護学概論	単位 1単位	ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解する。様々な個人の生活様式や多様な価値観の中で生活する成人期にある対象の健康問題を理解する 成人期における健康の保持増進・疾病予防の援助と看護の役割を理解する 成人保健の動向および看護の役割について理解する			
担当講師	戌亥 桂子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	成人と生活	対象理解:大人になること、大人であること ・発達課題・発達段階 ・対象の生活、働いて生活を営むこと ・仕事とは、労働実態と社会状況	講義	戌亥 桂子	基礎分野 心理学 哲学 教育学
	2	生活と健康	・成人を取り巻く環境と生活から見た健康 ・人口・経済・成人を取り巻く環境の諸問題、成人の健康の状況 ・死因順位、職業性疾患、メンタルヘルス	講義		文化社会学 人間関係論演習 マネジメント論
	3	生活と健康を守りはぐくむシステム	健康日本21、がん対策基本法 医療法の改正 福祉に関わる対策(障害者福祉、高齢者福祉) 保健・医療・福祉システムの連携	講義		専門基礎分野 臨床薬理学 疾病治療論 リハビリテーション療法
	4	健康をはぐくむ看護	健康生活をはぐくむ看護の場と活動 ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ	講義 グループワーク		食事療法 保健医療論 公衆衛生学
	5	成人への看護アプローチの基本	大人の健康行動の捉え方と大人の健康行動を促進する看護アプローチ 成人教育学の特徴、大人の学習のプロセス、大人の学習への援助 行動変容を促す看護アプローチ	講義 グループワーク		関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ
	6	生活とストレス	健康バランスの構成要素 健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防	講義 グループワーク		専門分野 看護学概論
	7	健康生活の急激な破綻から	健康の急激な破綻	講義		成人援助論Ⅰ
	8	回復を促す看護	急激な健康破綻をきたした人の看護	グループワーク		成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ
	9	健康生活の慢性的な揺らぎの	慢性的な健康状態の揺らぎと慢性病	講義		
	10	再調整促す看護	慢性病を持ちながら生活していくうえで絶え間ない 取り組み・努力 セルフケア 慢性病との共存を支える看護	グループワーク		
	11	障害を持ちながらの生活と	障害をもつ人とリハビリテーション	講義		
	12	リハビリテーション	障害をもち生活する人を支援する看護	グループワーク		
	13	人生の最期のときを支える看護	終末期医療の現状 終末期医療における3つの概念	講義		
	14		人生の最期のときを過ごしている人の理解	グループワーク		
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護のための人間発達学 第5版 医学書院					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論 I	単位 1単位	恒常性維持が困難になった対象を疾患、機能・病態と治療から捉えて特徴を理解しその看護を学ぶ。内部環境調整機能に障害をもつ患者の看護では生活習慣病や慢性期疾患を持ちながら身体障害と共存していく対象への教育的アプローチを学ぶ。腎機能疾患をもつ患者の看護では多臓器疾患との関連や医療の動向、透析治療と導入を行う患者の看護を通して、慢性疾患の増悪からシャント造設を行い退院に向けて自己管理していく患者の看護を学ぶ			
担当講師	堀之内 泉 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:3年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	身体障害と共存する患者の看護 慢性期の患者の看護	セルフケア 成人の学習支援、自己効力感 エンパワーメント セルフマネジメント	講義	堀之内 泉	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	内分泌系疾患患者の看護	視床下部-下垂体系疾患患者の看護	講義	田中 友香	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	3		甲状腺、副甲状腺疾患患者の看護 内分泌器官の構造と機能、病態・検査・処置 症状に対する看護	グループワーク		
	4		糖尿病患者の看護(事例展開)	講義		
	5	・機能と病態、検査・処置と看護	グループワーク			
	6	・機能別アセスメント (健康管理・健康知覚、栄養・代謝、排泄) 看護問題の抽出、看護計画				
	7	血糖測定		演習	堀之内 泉	臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅳ
	8	事例検討発表		発表	堀之内 泉	
	9	腎機能疾患を持つ患者の看護	腎臓の構造と機能、検査・処置、症状に対する看護 腎不全とAKI・CKD、糖尿病性腎症 医療の動向	講義	小野 由加子	専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	10	透析療法を受ける患者の看護	血液透析、腹膜透析を受ける患者の看護 腎移植を受ける患者の看護	講義 グループワーク	小野 由加子	
	11	糖尿病性腎症から透析導入となった患者の看護	事例展開	講義	小野 由加子	
	13		機能別アセスメント (健康管理・健康知覚、排泄、栄養代謝)	グループワーク		
	14	退院指導	食事指導、日常生活への看護	発表 講義	小野 由加子	
	15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅱ	単位 1単位	消化機能障害、代謝機能障害をもつ患者の病態と治療、機能障害から起こる症状に対する看護を学ぶ。消化機能障害をもつ患者の看護では事例を用いて、急性期から回復期へ向かう患者の障害受容、ボディイメージの変化、退院後の生活指導を学ぶ。代謝機能障害をもつ患者の看護では、エンドオブライフケア期(終末期)にある対象の苦痛・苦悩と症状の緩和に向けた援助について学ぶ			
担当講師	喜多 直 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目	
	1	消化機能障害をもつ患者の看護	構造と病態、検査と治療 症状の看護(胃・食道) 内視鏡を受ける患者の看護	講義	喜多 直	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	ストーマ造設術を受ける患者の看護	病態と機能 術前～術後の看護	講義		専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法
	3	ストーマ造設患者の事例	機能別アセスメント	講義 グループワーク	山田 緑	リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅱ
	4		健康管理・健康知覚、活動・休息、栄養代謝・排泄			
	5		役割・関係、ボディイメージの変容			
	5		術後の侵襲と全身麻酔の影響 看護問題の抽出・看護計画			
	5		ストマ管理、退院後の支援 看護問題の抽出・看護計画			
	6	事例検討発表		発表	山田 緑	
	7	事例の退院に向けた演習	ストマ管理、退院後の支援	演習	根岸 睦	
	8	胆・肝・膵の検査を受ける患者の看護	病態と検査・治療 肝生検、硬化療法	講義	喜多 直	
	9	疼痛緩和が必要な患者の看護	全人的苦痛の理解、末期患者の心理プロセス	講義	塚 久美子	専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント
	10		トータルペイン、がん性疼痛のメカニズム 疼痛緩和・症状と苦痛の緩和(オピオイド) ケアプランと意思決定支援			
	11	事例検討	肝臓がん(肝硬変)末期で多臓器へ転移が見られる患者の看護	講義 グループワーク	山田 緑	基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	13		機能別アセスメント (活動・運動、休息、睡眠、価値・概念、栄養・代謝) 看護計画 関連図			
14	安寧・安楽を考えた看護援助、腹囲測定 症状と苦痛の緩和の看護(浮腫、腹水、呼吸困難)					
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験、レポート 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅲ	単位 1単位	運動機能障害をもつ患者を通して機能障害をもちながら社会復帰に向かう対象への支援を多職種連携と看護の機能から学ぶ。 血液疾患患者の看護では、疾病と付き合いながら生活してきた対象が、疾病の再発から重篤な状態に至る看護を通してその人らしく終焉を迎えるための看護について学ぶ			
担当講師	塚本 友恵 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	回	項目	内容	教授法	担当講師 関連科目	
学習内容	1	リハビリテーションの特徴と	リハビリテーション看護の実際	講義	長澤 亜由美	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	その看護	障害の受容 廃用症候群の予防 代謝機能の獲得 セルフマネジメント 家族支援 社会参加 制度の活用 多職種チームの連携 住居のアセスメント	グループワーク		
	3	中枢神経系の障害と リハビリテーション看護	構造と機能 病態と治療 合併症の予防と管理		長澤 亜由美	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ
	4	事例検討	脊髄損傷患者の看護	講義		
	5		排便・排尿障害、性機能障害の看護	グループワーク		
	6		合併症の予防と管理 (運動麻痺、呼吸機能障害、排尿障害、排便機能障害 性機能障害、褥瘡、神武静脈血栓症) 機能別アセスメント (健康知覚・健康管理、活動・運動、セクシュアリティ 排泄、栄養・代謝) 問題抽出 看護計画 対象の社会復帰を目指して			
	7	理学療法士による移乗・移送		演習		
	8	事例発表		発表		
	9	エンドオブライフケア期にある 対象の看護	スピリチュアルペイン、末期患者の心理プロセス 意思決定支援、ACP QOL	講義	塚 久美子	基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	10	血液疾患の患者の看護	医療の動向 病態と治療 疾患を持つ患者の経過と看護 症状とマネジメント 化学療法と看護、輸血と看護	講義	塚本 友恵	
	11	白血病患者の看護	病態と治療、その看護 機能別アセスメント (活動・運動、休息、睡眠、価値・概念、栄養・代謝) 援助計画 関連図	講義 グループワーク	塚本 友恵	
	14					
	15	終講試験	筆記試験			
	評価方法	筆記試験、レポート 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 臨床看護総論 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅳ	単位 1単位	呼吸器疾患の患者の事例を通して、周術期にある患者の身体侵襲とその看護を学ぶ 手術前・中・後の患者の変化から予想の視点と術後の合併症の予防とリスク管理について、ゴードンの機能別アセスメントシートを用いて対象の疾患・病態生理から対象の状況と変化を捉え個性のある看護を考える 急性期から回復過程にある患者の退院後の生活を見据えた生活指導、急変時の対応などクリティカルケアについて学習する			
担当講師	木村 眞佑美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	手術期の患者の看護	生体反応と身体侵襲	講義	木村 眞佑美	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2		術後の合併症とその成り立ち、看護 創傷治癒過程とその看護			
	3	手術を受ける患者の看護	術前の患者の看護 ・術前のインフォームドコンセント ・術後の合併症を見据えた術前検査と準備	講義	木村 眞佑美	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	4		術中の患者の看護	講義	高橋 文	臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法
	5		術後の患者の看護	講義	木村 眞佑美	リハビリテーション療法 疾病治療論
	6	呼吸器疾患患者の看護	肺がんの検査、治療と看護 閉塞性肺疾患、気管支喘息患者の看護	講義	原田 雅美	病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅳ
	7	事例検討	肺がんで手術を受ける患者の看護 看護問題の抽出 看護計画の立案	講義	岸本 早央里	
	8		実施・評価 機能別アセスメント (健康知覚・健康管理、活動・運動、排泄、栄養・代謝 役割・関係)	グループワーク		専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント
	9					基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	10	人工呼吸器を装着している 患者の看護	気管内吸引 人工呼吸器の管理・看護	演習	原田 雅美	
	11	術直後の患者の援助	術直後の患者のフィジカルアセスメント 末梢循環ケア(弾性ストッキング)	発表	岸本 早央里	
	12	創傷処置とドレーン管理の実際	創傷処置 胸腔ドレナージ、排痰ドレナージ 離床時の援助	演習	岸本 早央里	
	13	回復を促進する看護	術後合併症の予防と発症時の援助	講義	岸本 早央里	
	14	退院後を見据えた看護	退院指導	講義	岸本 早央里	
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験、レポート 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 看護技術プラクティス 学研					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論V	単位 1単位	現代の救急医療の現状と救急医療システム、初期対応とアセスメントについて学ぶ 循環器疾患患者を通して救急搬送時のアルゴリズム(検査、治療)、症状に対する看護、包括的 リハビリテーションと退院に向けた支援・退院指導を一連の看護展開の中で学ぶ			
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育 目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習 内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	急性期の看護	急性期看護の対象と心身の特徴 治療の特徴と患者、家族への影響	講義	永倉 郁恵	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	救急看護	救急看護の特殊性、救急医療体制と救急システム	講義	永倉 郁恵	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅱ
	3		緊急性と重症度のアセスメント 全身状態の外観の観察とアセスメント 重要病態に対する救急処置と看護 (中毒・熱傷・ショック)	グループワーク 演習		
	4		重症集中ケアの看護	講義		
	5	循環器疾患患者の看護	病態、治療、検査、処置と看護 医療の動向	グループワーク 講義	永倉 郁恵	臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅱ
	6	12誘導心電図、モニター装着している患者の看護	演習			
	7	不整脈の治療と看護 恒久的ペースメーカ植え込み術を受ける患者の看護	講義 グループワーク			
	8	事例展開	虚血性心疾患(心筋梗塞)で心臓カテーテル検査を 受ける患者の看護	講義	長澤 亜由美	専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	9		病態と看護	グループワーク		
	10		機能別アセスメント (健康知覚・健康管理、活動・休息、排泄、栄養・代謝 役割・関係、コーピング、ストレス) 看護問題の抽出と看護計画	グループワーク		
	11		包括的リハビリテーションと退院指導 セルフマネージメント(禁煙指導) 運動負荷試験	講義 グループワーク	長澤 亜由美	医療安全 看護管理・看護倫理
	12	発表	事例検討発表	発表		
	13	BLS		演習	府ライフサポート協会	
	14					
15						
評価 方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院					

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	老年看護学概論	単位 1単位	老年看護の対象を理解し、老年看護の動向と機能と役割について理解する 近年の社会構造の変化を理解し、老年期における人々の保健・医療・福祉の動向と対策について理解する			
担当講師	清水 弘子 看護師臨床経験:9年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	老年看護学とは	老年看護のなりたち	講義	清水 弘子	基礎分野 心理学 哲学 文化社会学 教育学 人間関係論演習 専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 保健医療論 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ 専門分野 看護学概論 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 共通看護技術Ⅰ 家族看護学 老年援助論Ⅰ～Ⅲ
	2	加齢に伴う変化	加齢と老化 老化の誘因・促進因子、予防 加齢に伴う身体的・社会的・心理的側面の変化 老年期の発達と成熟 発達課題 サクセスフルエイジング・健康寿命	講義		
	3	高齢者の現況	高齢者のいる世帯 高齢者の健康状態 高齢者の死亡	講義		
	4		高齢者の暮らし	講義		
	5	高齢者の現況	地域で生活する高齢者へのインタビュー	演習		
	6	高齢者とのコミュニケーション				
	7	高齢者をとりまく保健医療福祉の動向	保健医療福祉制度の変遷 介護保険制度のしくみ(概要) 医療・介護総合確保推進大綱(地域包括ケアシステム) 認知症施策推進大綱 後期高齢者医療制度	講義		
	8					
	9	高齢者の権利擁護	エイジズム 高齢者虐待 身体拘束	講義		
	10		成年後見制度 日常生活自立支援事業			
	11	保健医療福祉施設および居住施設における看護	介護保険施設 地域密着型サービス サービス付き高齢者向け住宅(高齢者住まい法) 社会福祉施設	講義		
	12	高齢者のヘルスプロモーション 高齢者に起こりやすい事故 高齢者を支える多職種	健康日本21と介護予防 日常生活支援事業 転倒・転落 誤嚥・窒息 溺水 転倒のアセスメントと看護 高齢者をとりまく職種とその役割	講義		
	13	治療・介護を必要とする高齢者と家族の看護 エンドオブライフケア	家族形態と機能の変化 介護の状況 家族への援助 エンドオブライフケアとは 意思決定への支援 末期段階に求められる援助	講義		
	14	老年看護の目指すもの		講義		
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験 但し、受験資格は履修規定 第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編 医学書院 国民衛生の動向					

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	老年援助論 I	単位 1単位	老年期の特徴と疾病の症状、病態生理を理解しおま治療および看護について学ぶ。			
担当講師	岸本 早央里 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:1年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	老年期における身体機能の変化 受療する高齢者の看護	老年症候群とは 加齢による検査結果への影響 外来受診・検査を受ける高齢者の看護	講義	岸本 早央里	基礎分野 心理学 人間工学
	2	薬物治療を受ける高齢者の看護	薬物動態の特徴 ポリファーマシー 服薬行動の特徴 服薬管理支援	講義	岸本 早央里	人間関係論演習
	3	運動器系の加齢変化と特徴的な疾患・看護	加齢による運動器系の変化 アセスメント 高齢者の基本動作とそれを支える環境 日常生活動作の評価	講義	桑田 五月	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学 I 看護形態機能学 II
	4	呼吸・循環系の加齢変化と特徴的な疾患・看護	加齢による呼吸・循環系の変化 アセスメント COPD 心不全	講義	本江 真人	看護形態機能学 III
	5	消化器系の加齢変化と特徴的な疾患・看護	加齢による消化器系の変化 アセスメント 排便のアセスメント 便秘 下痢	講義	馬嶋 きみよ	専門分野 看護学概論 看護の思考過程 共通看護技術 II
	6	腎・泌尿器系の加齢変化と特徴的な疾患・看護	加齢による腎・泌尿器系の変化 アセスメント 水・電解質異常 排尿障害 加齢による免疫機能の変化 尿路感染症	講義	本江 真人	
	7	脳・神経系の特徴的な疾患・看護	脳梗塞 脳出血 麻痺 言語障害 失認 失行 無視 MMT	講義	本江 真人	
	8	終講試験				
評価方法	筆記試験 但し、受験資格は履修規定 第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院(eナーstレーナー)					

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	老年援助論Ⅱ	単位 1単位	高齢者に起こりやすい症候・疾患とその回復過程を、高齢者の特徴をふまえ理解し、回復に向けた援助について学ぶ。			
担当講師	清水 弘子 看護師臨床経験:9年以上 教員経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	リハビリテーションを受ける高齢者の看護	高齢者リハビリテーションの特徴 リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義	日高 朋美	基礎分野 人間工学 人間関係論演習
	2		もてる力をいかした排泄介助・入浴介助		日高 朋美	
	3	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	発熱 脱水 腰痛 浮腫	講義	栗岡 美千代	専門基礎分野
	4		骨粗しょう症 転倒時に骨折しやすい部位 脊椎圧迫骨折 大腿骨近位部骨折 変形性関節症	講義	栗岡 美千代	疾病治療論 リハビリテーション療法 食事療法 臨床薬理学
	5		感染症(肺炎 疥癬 ノロウイルス)		清水 弘子	
	6		嚥下障害のある高齢者の口腔ケア *特別教育活動「看護技術演習」にて演習			
	7	事例に基づいた看護過程展開	高齢者のヘルスアセスメントの基本 健康障害で入院加療が必要な高齢患者と家族への援助	講義	清水 弘子	
	8					
	9					
	10			GW		専門分野
	11			GW		看護学概論 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ
	12	シミュレーション演習	事例患者への看護計画の実施	演習		経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ
	13					老年看護学概論 老年援助論Ⅰ 老年援助論Ⅲ 医療安全 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
	14	まとめ				
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(7割) レポート(3割:事例展開・ATC見学レポート) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編 医学書院					

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	老年援助論Ⅲ	単位 1単位	多様な健康レベルにある老年期の対象とその家族を総合的にアセスメントし、対象に応じた看護を展開できる能力を養う		
担当講師	岸本 早央里 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:1年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
1	高齢者の生活を支える看護	活動の縮小による影響 廃用症候群 フレイル 閉じこもり 身体機能・認知機能に応じた安全な活動維持・拡大の支援	講義	岸本 早央里	基礎分野
2		ポジショニング 関節可動域訓練	演習	日高 朋美	専門基礎分野 生化学
3		食事・食生活の特徴と援助 低栄養 摂食・嚥下障害 身体機能・認知機能に応じた食事と食生活の支援	講義	馬嶋 きみよ	看護形態機能学Ⅰ～Ⅲ 病態生理学総論 臨床薬理学 食事療法
4		生活リズムの特徴と援助 睡眠と生活リズムの特徴 身体機能・認知機能に応じた活動と休息の支援 コミュニケーションの特徴と援助 コミュニケーションの特徴:視力障害(老視・白内障) 難聴 特徴・個性に応じたコミュニケーション方法	講義	岸本 早央里	リハビリテーション療法 病態と治療Ⅰ～Ⅴ 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
5		セクシュアリティの理解 高齢者にとってのセクシュアリティの理解と対応 清潔と衣生活の特徴と援助 高齢者の皮膚機能の特徴(老人性皮膚掻痒症を含む) 高齢者の清潔と衣生活の特徴 身体機能・認知機能に応じた清潔と衣生活の支援	講義	岸本 早央里	専門分野 看護学概論 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 共通看護技術Ⅰ～Ⅲ 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ
6	高齢者の特徴と起こりうる障害	スキンテア 褥瘡 スケール 回復促進に向けた援助(創洗浄・処置)	講義	岸本 早央里	家族看護論 基礎統合演習 老年看護学概論 老年援助論Ⅰ 老年援助論Ⅱ
7	福祉用具活用への理解	ATCエイジレスセンター見学	演習	岸本 早央里	成人看護学概論 成人援助論Ⅰ～Ⅴ
8	認知機能が低下した高齢者の看護	認知症の種類・症状、予防 種類・症状 日常生活への影響 認知症高齢者と家族の支援	講義	岸本 早央里	地域・在宅看護概論 訪問看護技術 訪問看護の看護過程 地域と看護
9		認知症看護の基本姿勢(ユマニチュード)	講義	田中 さおり	ケアマネジメント演習
10		認知症高齢者への対応	演習		医療安全
11	手術療法を受ける高齢者の看護	高齢者に起こりやすい周手術期の反応と合併症 せん妄	講義	岸本 早央里	看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
12	生活の場を変える高齢者の支援	入院時・入所時の援助 退院・退所支援 看護職間・多職種間の情報提供	講義	岸本 早央里	
13	長期入院・入所高齢者の看護	長期入院・入所高齢者のアセスメント	講義	岸本 早央里	
14		生活上の課題と援助 レクリエーション			
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(7割) レポート(3割:事例展開・ATC見学レポート) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態:医学書院 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連 医学書院(eナーストレーナー)				

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	小児看護学概論	単位 1単位	21世紀の小児看護を担う人材として、小児を理解し、複雑化・多様化する小児の健康問題を社会・家族の広い視野から洞察し、こどもの人権尊重を基盤にした小児看護のあり方を学び、小児看護の実践に活かす			
担当講師	寶毛 良子 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場暮らしあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	小児看護の特徴と理念	小児看護の目指すところ 小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計:人口構造、出生と死亡	講義	寶毛 良子	基礎分野 心理学 文化社会学
	2	小児看護の変遷	小児看護の歴史、子ども観の変遷、小児医療の変遷	講義・演習		
	3	小児看護における倫理	子どもの権利と歴史的流れ、児童憲章 子どもの権利条約の特徴 子どもの権利を守る倫理 小児看護の課題	講義		
	4	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉:児童福祉の変遷と虐待 母子保健	講義		専門基礎分野 病態と治療VI
	5	子どものヘルスプロモーションと看護	医療費の支援:未熟児養育医療 小児慢性疾患特定疾患治療研究事業 予防接種:歴史と現在の予防接種	講義		社会福祉Ⅰ・Ⅱ 関係法規Ⅰ・Ⅱ
	6		学校保健 学校保健の歴史、健康診断、感染予防 食育、特別支援教育、臓器移植	講義		
	7	子どもの成長・発達と看護	成長・発達とは 成長・発達の進み方と影響する因子 成長・発達の評価	講義		
	8	新生児の成長・発達	新生児 形態的特徴、身体生理的特徴 新生児の養育および特徴	講義		専門分野 看護学概論 家族看護論
	9	乳児の成長・発達	乳児 形態的特徴、身体生理的特徴、各機能の発達 乳児の養育および特徴	講義		小児援助論Ⅰ 小児援助論Ⅱ 小児援助論Ⅲ
	10	幼児の成長・発達	幼児 形態的特徴、感覚・運動・知的機能の発達 ピアジェの認知発達の理論 運動機能の発達による遊びの種類の増加	講義		母性看護学概論 精神看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	11	学童期の成長・発達と支援	学童 形態的特徴、感覚・運動・知的機能の発達 幼児の養育および看護	講義		
	12	思春期・青年期の子ども	思春期・青年期の身体的発達の特徴 知的・情緒的・社会的機能の発達 不適応行動 性教育、安全教育 思春期の看護	講義		
	13	病気・障害を持つ子供と家族の看護	病気・障害が子供と家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 健康問題を持つ子供の家族の看護	講義		
	14	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	入院中の子供と家族の看護 外来における子供と家族の看護 在宅療養中の子供と家族の看護 災害時の子供と家族の看護	講義		
	15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論 I	単位 1単位	健康障害をもつ小児と家族が生活・療養するために必要な看護を学ぶ			
担当講師	橋倉 尚美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	染色体異常・胎内環境により 発症する先天異常と看護	出生前 出生後の看護 おもな染色体異常疾患をもつ小児の看護	講義	太田 芙貴子	基礎分野
	2	新生児の看護 疾患別・状況に応じた看護	低体重出生児の看護 循環器疾患 運動器疾患 事故・外傷の看護	講義	太田 芙貴子	専門基礎分野 病態と治療VI 専門分野 看護学概論
	3	疾患別・状況に応じた看護	代謝性疾患	講義	東 桂子	経過に応じた基本技術 I 経過に応じた基本技術 I 小児看護学概論 小児援助論 II 小児援助論 III 医療安全
	4		内分泌疾患			
	5		免疫疾患・アレルギー疾患			
	6		感染症(麻疹・風疹など) 呼吸器疾患 消化器疾患 神経疾患 耳鼻咽喉疾患			
	7	疾患別・状況に応じた看護	血液・造血器疾患 悪性新生物 皮膚疾患 腎・泌尿器及び生殖器疾患 精神疾患	講義	山本 亜希子	
	8	健康障害をもつ小児の生活と看護	経過別の看護	講義	小柴 直美	
	9		処置・検査を受ける小児の看護			
	10		(薬物療法、吸入、点滴、採血、与薬 など) 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 病気・障害を持つ子どもと家族の看護			
	11	症状のある小児への看護	症状を示す子どもの看護	講義	山本 亜希子	
	12		痛み、呼吸器・循環器系の症状、発熱など			
	13	心身障害のある小児	障害のある子どもと家族の看護	講義	小柴 直美	
	14	心身障害のある小児	子どもの虐待と看護	講義	橋倉 尚美	
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験 10割 (太田講師15点 東講師30点 山本講師20点 小柴講師30点 橋倉講師5点) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院					

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論Ⅱ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族への日常生活援助と、対象にとって安全で安楽な療養生活が送れるような小児看護ケアを学ぶことで、小児看護に必要な知識・技術・態度を身につける			
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	小児に必要な看護技術 検査・処置を受ける子どもの看護	コミュニケーション 成長発達のアセスメント バイタルサイン測定 フィジカルアセスメント ベッド柵の操作 遊び	講義	中島 真希	基礎分野 専門基礎分野 病態と治療Ⅵ
	2	子どもの安全・安楽	子どもの安全 ディストラクション プレパレーション 身体測定 点滴管理 抗生剤・点滴の計算 保清 感染予防 抑制	講義	中島 真希	専門分野 ヘルスアセスメント 家族看護論 小児看護学概論 小児援助論Ⅰ 小児援助論Ⅲ 医療安全
	3	バイタルサイン測定 身体計測	演習	技術演習	中島 真希	
	4	日常生活援助 点滴管理	演習	技術演習	中島 真希	
	5.6	プレパレーション	グループワーク		長澤 亜由美	
	7	プレパレーション	発表		長澤 亜由美	
	8	終講試験	筆記試験		長澤 亜由美	
評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 配分:中島講師6割 長澤講師4割 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野 専門分野	小児看護学[1] 小児看護学[2]	小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児臨床看護各論	医学書院 医学書院	

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論Ⅲ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族の事例を通して情報の整理、看護計画の立案、実施、追加、修正のプロセスを実施することで、小児看護に必要な知識、看護過程の展開の技術・態度を身につける			
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1 5 6	小児の看護過程の展開	事例展開: 虫垂炎・川崎病 ネフローゼ症候群・気管支喘息の子どもと家族 看護過程、情報収集の視点 アセスメント 関連図の書き方 看護問題の抽出 ケアプランの立て方	講義 グループワーク	長澤 亜由美	基礎分野 専門基礎分野 病態と治療Ⅵ
	7		グループ毎に発表し共通理解をする	発表		専門分野 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 家族看護論
	8	終講試験	筆記試験			経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ 小児看護学概論 小児援助論Ⅰ 小児援助論Ⅱ 医療安全 看護管理・看護倫理
評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院					

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	母性看護学概論	単位 1単位	次世代の健全な育成と、性と生殖の健康について理解し、女性の生涯にわたる健康の保持増進に向けての課題や看護の役割について学ぶ			
担当講師	増本 綾子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 20時間				
教育目標	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	2 さまざまな場暮らしあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	母性看護の基盤となる概念 対象理解の基盤となる概念	母性、父性、親性 母親役割、父親役割 母子相互作用、愛着形成 婚姻、家族の発達・機能	講義	増本 綾子	基礎分野 文化社会学
	2	リプロダクティブヘルス/ライツ	リプロダクティブヘルスの概念 世界の現状、日本の課題 ヘルスプロモーション エンパワメント	講義		専門基礎分野 看護形態機能学Ⅲ 病態と治療Ⅴ 公衆衛生学 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ
	3	セクシュアリティ	セクシュアリティ、セックス、ジェンダー 性の多様性 トランスジェンダー	講義		専門分野 看護学概論 家族看護論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 母性援助論Ⅰ 母性援助論Ⅱ 母性援助論Ⅲ 看護管理・看護倫理
	4	母性看護における倫理	プライバシーの保護、意思決定 生殖にまつわる倫理的課題 出生前診断、生殖補助医療、人工妊娠中絶	講義		
	5	社会の変遷と動向	歴史的変遷 出生に関する統計 周産期の死亡に関する統計 母子保健に関する施策や法律	講義		
	6	女性のライフサイクル各期の看護 思春期・成熟期女性の健康と看護	現代女性のライフサイクル 第二性徴、月経周期 月経異常、月経随伴症状、女性生殖器疾患 性行動、生殖 家族計画、受胎調節、性感染症、不妊症 性暴力、DV	講義		
	7	更年期・老年期女性の健康と看護	ホルモンの低下、閉経 更年期症状、骨粗鬆症 加齢による変化 尿失禁、骨盤臓器脱、外陰炎 家族の再構築 空の巣症候群、うつ	講義		
	8	女性の健康課題への支援	女性のライフサイクルにおける健康課題とその支援	グループワーク		
	9		グループワーク発表			
10	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 母子手帳					

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	母性援助論 I	単位 1単位	正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と看護実践能力を養うとともに、ウェルネスの視点で対象に関わり、適切な時期に応じた援助について学ぶ			
担当講師	宮崎 貴子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	妊娠期における看護	妊娠期の身体的変化 胎児の発育とその生理、母体の生理的变化 妊娠期の心理・社会的変化 妊婦の心理、妊婦と家族および社会	講義	宮崎 貴子	基礎分野
	2		妊婦と胎児のアセスメント 身体的健康状態の診断 日常生活に関するアセスメント	講義		
	3		妊婦と家族への看護 妊婦の保健相談 親になるための準備教育	講義		
	4	分娩期における看護	分娩の3要素、分娩の経過 分娩の進行と産婦の身体的変化 産婦の心理・社会的変化	講義	宮崎 貴子	専門基礎分野 看護形態機能学Ⅲ 病態と治療Ⅴ
	5		産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 産婦と家族の心理・社会的アセスメント	講義		
	6		産婦と家族の看護 安全・安楽な分娩への看護 基本的ニーズに関する看護	講義		
	7	産褥期における看護	産褥期の身体的変化 子宮の復古、全身の復古、乳汁の分泌	講義	増本 綾子	専門分野 看護学概論 家族看護論 母性看護学概論 母性援助論Ⅱ 母性援助論Ⅲ
	8		産褥期の心理・社会的変化 母親、父親への適応過程 マタニティブルー	講義		
	9		褥婦のアセスメント 褥婦の健康状態のアセスメント 日常生活に関するアセスメント	講義		
	10		褥婦と家族の看護 身体機能回復への看護 育児に関わる看護 産後うつ予防	講義		
	11	新生児期における看護	新生児の生理 新生児の生理的特徴と機能	講義	増本 綾子	
	12		新生児のアセスメント 新生児の健康状態と発育のアセスメント	講義		
	13		新生児の看護 出生直後の看護 出生直後～退院までの看護	講義		
	14		退院後の新生児の看護 切れ目のない支援	講義		
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院					

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	母性援助論Ⅱ	単位 1単位	子どもを産み育てる過程において、特別なニーズをもつ妊産婦、新生児への看護を学ぶ			
担当講師	羽賀田 千晶 助産師臨床経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	妊娠期の健康問題に対する看護 ハイリスク妊娠	妊娠に合併する全身疾患 慢性高血圧症、心疾患、糖尿病など 妊娠期の感染症 風疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、GBSなど 妊娠疾患 妊娠高血圧症候群、流・早産、子宮外妊娠など	講義	羽賀田 千晶	基礎分野
	2	ハイリスク妊婦の看護	身体的ハイリスク妊婦 合併症を有する妊婦 切迫流・早産の妊婦	講義		専門基礎分野 看護形態機能学Ⅲ 病態と治療Ⅴ
	3		社会的ハイリスク妊婦 高年妊婦、若年妊婦、不妊治療後の妊婦 シングル、未受診、特定妊婦	講義		専門分野 母性看護学概論 母性援助論Ⅰ 母性援助論Ⅲ 医療安全
	4	分娩期の健康問題に対する看護 分娩経過の異常	産道の異常(骨産道、軟産道) 娩出力の異常(微弱陣痛、過強陣痛) 胎児の異常(胎位の異常、回旋異常) 胎児付属物の異常 (前置胎盤、常位胎盤早期剥離、前期破水) 胎児機能不全	講義		
	5	分娩時、分娩直後の異常	裂傷 子宮破裂、頸管裂傷、会陰裂傷 胎盤、子宮の異常 癒着胎盤、弛緩出血、子宮内反症 分娩時異常出血 産科ショック、羊水塞栓症、DIC 産科処置と産科手術 分娩誘発、帝王切開	講義		
	6	ハイリスク産婦の看護	帝王切開術を受ける産婦 異常出血のある産婦 死産・障害がある新生児を出産した親 産後精神障害のある産婦	講義		
	7	新生児の健康問題に対する看護 ハイリスク新生児の看護	新生児仮死と蘇生 低出生体重児の看護、ディベロップメンタルケア 高ビリルビン血症と光線療法中の看護	講義		
	8	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院					

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	母性援助論Ⅲ	単位 1単位	妊産褥婦および新生児に応じた看護が展開できる能力を養う			
担当講師	宮崎 貴子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	
	1	母性看護における看護過程とは	母性の看護過程におけるウェルネスの視点とは マタニティサイクルにおける看護過程 母性看護に使われる看護技術	講義	宮崎 貴子	基礎分野 心理学 人間関係論演習 教育学
	2	妊娠期・分娩期・産褥期 新生児期にある対象の 看護過程の展開	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象を理解し、身体的・精神的・社会的側面を考え、情報を整理し、看護計画を立案する	講義		専門基礎分野 看護形態機能学Ⅲ 病態と治療Ⅴ
	3	妊娠期の看護過程の展開	※「愛仁」家の事例展開 妊娠期の生理的変化・母性意識の形成・発展に注目して展開	講義		専門分野 家族看護論
	4		妊娠期に必要な援助技術 (着帯・レオポルド触診法・骨盤外計測)	演習		看護の思考過程
	5		保健指導技術 妊娠期の生活指導(食事・両親学級) 保健指導技術の実際	演習		母性看護学概論 母性援助論Ⅰ 母性援助論Ⅱ 医療安全
	6	分娩期の看護過程の展開	分娩期の生理的変化・産婦と家族の心理状態に注目して展開	講義		看護管理・看護倫理
	7		分娩期に必要な援助技術 (疼痛緩和・胎盤計測)	演習		
	8	新生児期の看護過程の展開	新生児期の胎外生活適応状態、生理的特徴、清潔、栄養、養育環境に注目して展開	講義		
	9・10		新生児期に必要な援助技術 (新生児期のフィジカルアセスメント・身体計測・おむつ交換・寝衣交換・沐浴)	演習		
	11	産褥期の看護過程の展開	産褥期の退行性変化、進行性変化、母乳育児、愛着形成、親役割行動に注目して展開	講義		
	12		産褥期に必要な援助技術 (産褥期のフィジカルアセスメント・悪露交換)	演習		
	13		保健指導技術□ 産褥期の生活指導	演習		
	14		保健指導技術の実際	ロールプレイング		
	15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(6割) レポート(4割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	精神看護学概論	単位 1単位	人間の心の動きをライフサイクルから見た発達、環境との相互作用から見た適応について学習し、こころの健康問題の発生のプロセスと健康の保持増進のための、看護の役割について学ぶ 精神の健康と精神障害者の歴史と法制度を学ぶ 対象の精神的安寧を保ち、安楽を促進する技術について理解する			
担当講師	木村 幸子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	精神看護学とは何か	精神看護学とは何か	講義	木村 幸子	基礎分野 心理学 文化社会学
	2		日本における自殺問題とメンタルヘルス			
	3		日本の精神科医療の現状 精神科医療のニーズ 精神障害の体験と精神看護 精神の健康とは	講義		
	4	心のはたらき	心身の健康に及ぼすストレスの影響 トラウマと回復	講義		
	5	心の仕組み	パーソナリティとは	講義		
	6		意識と無意識			
	7		自我の防衛機制 ライフサイクルとアイデンティティ			専門分野
	8	関係の中の人間	システムとしての人間関係 全体としての家族	講義		看護学概論 共通看護技術Ⅰ 家族看護論
	9	社会のなかの精神障害	精神障害の治療の歴史	講義		成人看護学概論 老年看護学概論
	10		西洋・日本 精神障害と文化・社会学 精神障害と法制度 精神保健福祉法 障害者総合支援法 精神科領域で必要な法律と制度			小児看護学概論 母性看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅱ 精神援助論Ⅲ
	11	看護者としての自己理解	マインドフルネス	講義・演習	岸本 早苗	
	12					
	13	精神的安寧を保つ援助	アロマセラピー ハーブの効力 アロマを用いたハンドマッサージ 他	講義・演習 研修	井 泰子	
	14		音楽療法 音楽の効力と音楽療法の実際	講義・演習	清水 真理子	
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論 I	単位 1単位	主な精神疾患と障害の原因・症状・検査・治療について学ぶ			
担当講師	杉林 稔 医師臨床経験:10年以上	時間数 20時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	人間の心のはたらきと パーソナリティ	心の理論 心理的特性をはかる検査	講義 DVD	杉林 稔	基礎分野 心理学
	2	精神症状論と状態像	症状とは何か			専門基礎分野
	3		さまざまな精神症状			
	4		感情の障害 意欲の障害 知覚の障害 意識の障害 記憶の障害			
	5	精神障害の診断と分類、治療	DSMとICDの分類 統合失調症 気分障害 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 精神作用物質使用による精神および行動の障害 発達段階で現れやすい精神障害・心的不調 知的障害、発達障害、摂食障害 パーソナリティ障害、適応障害、心身症			
	6	精神科での治療	精神科における治療			
	7		薬物療法・電気けいれん療法 精神療法 環境療法・社会療法			
	8	終講試験	筆記試験			
	9					
10	筆記試験(10割)	筆記試験				
評価方法	但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論Ⅱ	単位 1単位	精神障害者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助を学ぶ 状態に応じて自立を支援出来るような援助方法を学ぶ 精神障害と身体疾患をつなぐリエゾン看護について学ぶ			
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	回復を支援する	回復の意味と環境 リカバリー さまざまな回復のためのプログラム	講義	長嶺 洋子	基礎分野
	2	地域におけるケアと支援	地域における生活支援 地域の蹴る生活支援と方法 学校・職場におけるメンタルヘルス	講義		専門基礎分野
	3	入院治療の意味	治療的環境 観察とアセスメント ケアの方向性 退院に向けた支援とその実際	講義		
	4	身体とケアする	精神科における身体のケア	講義		専門分野 看護学概論 精神看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅲ
	5		精神科の治療と身体のケア 身体合併症			
	6	安全を守る	リスクマネジメントの考え方と方法 緊急事態に対処する	講義		
	7	医療の場におけるメンタルヘルス と看護	身体疾患と精神看護 リエゾン精神看護	講義		
	8	災害時のメンタルヘルスと看護	災害時の心のケア 災害時の人の心理 支援者のメンタルヘルス	講義		
	9	看護における感情労働と 看護師のメンタルヘルス	感情労働 看護師の感情ワーク 看護における共感の光と影 感情労働の代償	講義		
	10	症状・状態別看護	せん妄	講義	村井 隆二	
	14		不安、睡眠障害、幻覚、妄想のある患者の看護 強迫性障害、双極性障害、攻撃的行動などの看護 パーソナリティ障害、多飲症、混迷 摂食障害、引きこもり状態にある患者の看護			
	15		終講試験			
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院				

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論Ⅲ	単位 1単位	精神障害を持つ対象の状況に応じた看護を展開する能力を養う			
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	ケアの人間関係	関係をアセスメント	講義	長嶺 洋子	基礎分野 心理学 文化社会学
	2	治療的コミュニケーション	プロセスレコード			
	3	看護過程の実際	情報アセスメント	講義 グループワーク	断酒会	専門基礎分野 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	5		心の発達とサポートシステム			
	6		必要な援助を考える			
	7	当事者の体験	当事者の体験:アルコール依存症	演習		専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 看護の思考過程 家族看護論 精神看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅱ 医療安全
	8	終講試験	筆記試験			
	評価方法	筆記試験(5割) レポート(5割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院					

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい			
授業科目	災害看護・国際看護	単位 1単位	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害サイクルに応じた看護支援活動および看護の役割について学ぶ 国や文化を超えた人々の健康に関する諸問題について学び、看護の国際組織について学ぶ			
担当講師	森田 佳奈子 教育経験:10年以上 山田 友季子 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	災害看護学	災害看護の歩み 災害医療の基礎知識 定義・種類・特徴 災害の種類と健康障害 災害時の情報、災害対応に関わる職種間・組織間連携 災害看護の基礎知識 災害看護の定義・役割 対象 特徴と看護活動 国際救護活動における看護の役割と課題 災害看護教育と研究 災害サイクルに応じた災害看護と展開 急性期・亜急性期、慢性期・復興期、静穏期 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア	講義	山田 友季子	基礎分野 基礎英語 医療英語 文化社会学 心理学 専門基礎分野 公衆衛生学
	4	地域における防災対策と課題	地域の防災対策とマネジメント 居住地域での防災対策を考える	グループワーク 発表	高西 弘美	専門分野 看護学概論 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ
	5	災害時に必要な看護技術	災害時の救護活動に必要な看護技術 事例を用いる ① トリアージ ② 応急(究明)処置 ③ 搬送・移送技術 ④ その他	演習		
	7	国際看護の必要性と課題	* 国際看護とは何か? * グロバリゼーションに伴う国際看護の必要性と、現状と課題 感染症の拡大、社会格差と健康格差 在日外国人 外国人看護師	講義	森田 佳奈子	
	9	国際保健政策Ⅰ	* 日本と海外での出産を通しての異文化紹介 * プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション * ミレニアム開発目標	講義		
	10	国際保健政策Ⅱ	* 人間の安全保障 * 途上国における健康課題 背景にある社会、文化、伝統、保健医療	講義		
	11	保健医療分野における国際機関と日本の国際協力の現状	* 国際機関の種類と役割 * WHO(世界保健機関)の目的と活動 * 日本のODA(政府開発援助)の形態と活動状況	講義		
	12	国際協力活動の実際Ⅰ	JICAシニア海外ボランティアの活動を通して HIV/エイズに関する状況と文化的背景	講義		
	13	国際協力活動の実際Ⅱ	JICA専門家の活動を通して HIV/エイズに関する状況と課題、梅毒について	講義		
	14	ボツワナの国事情とHIV/エイズ問題、シエラレオネの国事情と保健医療問題	* 現地の人たちにとって必要な国際協力とは何かを その国の社会・文化から考える * 異文化コミュニケーションで大切なこと			
	15	筆記試験	筆記試験			
	評価方法	筆記試験(7割) レポート(3割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院				

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	医療安全	単位 1単位	看護医療事故の種類と構造を理解し、事故の危険因子を減らす方法について学ぶ			
担当講師	世古 真紀 看護師臨床経験:10年以上 佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	医療安全を学ぶことの大切さ(序章)	医療安全に関する用語の定義 人はなぜ間違いをおかすのか 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	講義	佐野 和美	基礎分野 情報科学 心理学 人間工学
	2	事故防止の考え方を学ぶ	医療事故と看護業務 看護事故の構造 看護事故防止の考え方	講義		専門基礎分野 保健医療論 関係法規Ⅱ
	3	診療補助業務の事故防止(Ⅰ)	業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 インシデント・アクシデント報告 事故事例の分析方法 看護業務に必要な計算方法・事例検討	講義		専門分野 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ
	4	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	業務領域を超えて共通する患者間違い 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャー 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義		ヘルスアセスメント 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 成人援助論Ⅰ～Ⅴ 老年援助論Ⅰ～Ⅲ 小児援助論Ⅰ～Ⅲ 精神援助論Ⅱ・Ⅲ 地域・在宅看護概論
	5	医療安全とコミュニケーション	不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 事故の未然防止上重要なコミュニケーション	講義		訪問看護技術 訪問看護の看護過程 看護の統合と実践
	6	組織的な安全管理体制への取り組み	組織としての医療安全対策 システムとしての事故防止の具体例 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応	講義	佐野 和美	
		医療安全対策の国内外の潮流	わが国の医療安全対策の取り組み	講義		
	7	診療補助業務の事故防止(Ⅰ)	注射業務と事故防止 注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ 関連)での事故防止	講義	世古 真紀	
	8		輸注ポンプ・シリンジポンプの事故の実際	演習		
	9		輸血業務と事故防止	講義		
	10		内服と薬業務と事故防止	講義		
	11	診療補助業務の事故防止(Ⅱ)	経管栄養注入業務と事故防止 チューブ管理と事故防止	講義		
	12	療養上の世話における事故防止	療養上の世話における事故の捉え方と防止 転倒・転落事故防止 摂食中の窒息・誤嚥・異食事故防止 入浴中の事故防止	講義	世古 真紀	
	13	看護師の労働安全衛生上の事故防止	職業感染・抗がん剤の曝露防止・放射線被爆 ラテックスアレルギー・院内暴力	講義	長友 美緒	
14		放射線の被ばく防止策の実施 人体へのリスクの大きい薬剤の曝露予防策の実施	演習	長友 美緒		
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院					

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい						
授業科目	看護管理・看護倫理	単位 1単位	看護におけるマネージメントについて学ぶ また医療や看護場面で起こる倫理的問題について学ぶ						
担当講師	植田 みゆき 看護師臨床経験:10年以上 西原 伸美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間							
教育目標	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる								
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる								
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目			
	1	看護とマネージメント	看護管理学とは 看護におけるマネージメント	講義	植田 みゆき	基礎分野 マネージメント論			
	2	看護ケアのマネージメント	看護ケアのマネージメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践	講義	西原 伸美	哲学 専門基礎分野 保健医療論 社会福祉 I			
	3	看護サービスのマネージメント	看護サービスのマネージメント	講義	西原 伸美	専門分野 看護学概論 看護研究 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護概論 訪問看護の看護過程 訪問看護と看取り			
	4		組織目標達成のマネージメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネージメント 施設・設備環境のマネージメント 物品のマネージメント 情報のマネージメント 組織におけるリスクマネージメント						
	5		看護を取り巻く諸制度				講義	植田 みゆき	成人援助論 I 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V
	6		看護の定義 看護職 医療制度 看護政策と制度 マネージメントを考える				講義	藤尾 泰子	老年看護学概論 老年援助論 III
	7	組織マネージメントを考える 看護組織をマネージメントする	演習	小児看護学概論 母性援助論 III					
	8	看護の本質と倫理	倫理とは、生命倫理とは、看護倫理とは 看護ケアの構造、ケアとケアリング 看護の倫理原則 アドボカシー ケアリング	講義		精神看護学概論 精神援助論 III			
	9	成人期の看護実践と倫理	専門職の倫理 倫理的問題へのアプローチ法	講義		医療安全			
	10		急性期の看護～移植医療 がん看護～積極的治療・緩和ケア 身体抑制と看護						
	11	老年期期の看護実践と倫理	認知症高齢者の看護と倫理	講義					
	12	母性の看護実践と倫理	母性看護の倫理～遺伝看護と倫理						
	13	小児の看護実践と倫理	小児看護における倫理的問題	講義					
	14	精神看護と倫理	急性期に生じる倫理的問題	講義					
15	在宅看護と倫理	在宅看護における倫理的問題							
16	看護研究と倫理	看護研究の特質と倫理	講義						
17	看護倫理の課題と展望	看護倫理の独自性と確立 看護倫理の教育・研究の課題と展望							
18	終講試験	筆記試験							
評価方法	看護管理:筆記試験(5割) 看護倫理:筆記試験(3割)、演習(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院								

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい			
授業科目	看護の統合と実践	単位 1単位	これまでの看護実践を通して構築した看護に対する考え方をもち、看護実践能力の主軸となる看護実践の技術的側面と、看護実践の問題解決的側面の到達度を評価し、看護師としての課題を明確にできる			
担当講師	佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	看護の統合と実践とは	各看護学の統合、看護実践能力、メタパラダイム 医療安全、マネジメント	講義	佐野 和美	基礎分野 心理学 人間工学
	2	臨床現場における推論	推論の必要性、臨床推論のプロセス	講義		人間関係論演習 マネジメント論
	3	事例検討:A	事例Aに対してのアセスメント ①健康知覚-健康管理と必要のあるアセスメントを フォーカス	グループワーク		文化社会学 哲学 教育学
	4		事例Aの推論を基に実施・評価	演習		
	5	事例検討:B	事例Bに対してのアセスメント ①健康知覚-健康管理と必要のあるアセスメントを フォーカス	グループワーク		専門基礎分野 生化学
	6		事例Bの推論を基に実施・評価	演習		看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	7	事例検討発表	事例A・Bについての推論を基に発表	発表		臨床薬理学
	8	臨床現場における多重課題	看護業務の遂行と多重課題	講義・演習		
	9	看護業務時間管理①	事例Aの看護問題抽出・計画立案 1日のスケジュール立案	グループワーク		専門分野 基礎看護学 家族看護論
	10	看護スケジュールの実践①	優先度・緊急度を考えた時間管理	演習		成人看護学 老年看護学
	11	看護業務時間管理②	事例Bの看護問題抽出・計画立案 1日のスケジュール立案	グループワーク		医療安全 看護管理・看護倫理
	12	看護スケジュールの実践②	事例患者A/Bへの医療安全・看護管理	演習		
	13	シミュレーション演習	初期把握、優先順位の決定、看護実践	演習		
	14	リフレクション	知識、技術、態度の振り返り 自己の課題の明確化	演習		
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(5割)、レポート・学習状況(5割:事例展開・発表・シミュレーション演習) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院 その他系統看護学講座 必要と思われるテキストすべて 医学書院					